

「国語Ⅰ」古文の入門期の指導について

吉 本 浩 士

はじめに

新しい教育課程の実施に当たって、文部省は、「従来のように教師の側から物事を考えるのではなく、学ぶ者の身になって物事が考えられなければならない。」と、教師自らに大きな発想の転換を求めた。新設された「国語Ⅰ」の目標も「国語を的確に理解し適切に表現する能力を養うとともに、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。」と、従前の「現代国語」や古典に関する科目の目標のように具体的に示しておらず、総合的な目標だけにとどめている。

今回の研究主題は、「総合的な科目の性格を生かした「国語Ⅰ」の効果的な指導」である。そこで、新設された科目「国語Ⅰ」のねらいを、古文指導の立場から、

- 小・中・高校の一貫性を図る。
- 現代文と古典との総合化をめざす。
- 言語の教育を重視する。

という視点でとらえ、入門期における古文指導のあり方について、実践したものをまとめてみた。

初めての試みであるため、まず、基礎資料の収集、整理をしながら、年間指導計画を作成。さらに、学期ごとに微修正をしながら、

単なる思いつきではなく、できるだけ系統的な学習ができるよう工夫した。

したがって、生徒の実態をふまえながら、一学期に実践した古文の授業（週二時間）の流れが中心になっている。

中学校における古文教材

中学校における古文の学習は、「理解」の領域の「読むこと」の活動として扱われる。中学校学習指導要領には、「古典の指導については、古典に対する関心を深め、古文と漢文を理解する基礎を養うようにすること。その教材としては、古典に関心を持たせるように書いた文章、短くて易しい文語文や格言、故事成語、親しみやすい古典の文章などを適宜用いるようにすること。」と示されている。

中学校の国語の年間時間数は、一年一七五、二年一四〇、三年一四〇時間である。そのうち、古典（古文・漢文）に配当される時間は、各学年とも、一単元分の一五時間程度である。

また、中学校で取り扱う古典教材（作品）は、現行五社の教科書とも似通っており、次の作品を中心に、単元が組み立てられている。

- 一年 竹取物語、今昔物語集
- 二年 平家物語、徒然草
- 三年 枕草子、おくのほそ道、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集

いますし、具体的に説明すれば、倉敷学区内の中学校で使用した、昭和五十六年度中学三年用M社の教科書には、「六 古典の世界」という単元に、教材として、次の作品が載っている。

・万葉集（あかねさす 額田王 ひむがしの 柿本人麻呂 田見の

浦ゆ 山部赤人 憶良らは 山上憶良 石ばしる 志貴皇子

信濃道は 東歌 わが屋戸の 大伴家持 韓衣 防人歌

・古今集（人はいさ 紀貫之 風吹けば 凡河内躬恒 うたた寝に

小野小町）

・新古今集（山深み 式子内親王 道のべに 西行 見渡せば 藤

原定家）

・枕草子（春はあけぼの（参考）うつくしきもの）

・おくのほそ道（月日は百代の 三代の栄耀）

・論語（省略）

また、古典単元の「学習の主な内容」として、

表現

1 古文や漢文の調子を生かして朗読する。

2 必要に応じて、現代語訳や鑑賞文、感想文などを書く。

理解

1 昔の人の生き方や考え方を読み取り、古典の心にふれる。

2 古文や漢文特有の言い回しや語句を理解し、古文や漢文の文章

に読み慣れる。

3 朗読を通して、古文や漢文の表現を味わう。

が挙げられており、「理解」が学習の中心であると注記している。

つづいて、「学習のしおり」には、具体的に和歌の学習として、

・和歌に表れている古人の心を読み味わう

・和歌のリズムや調子をつかんで読み味わう

・表現上の特徴に注意して読み味わう

「枕草子」の学習として、

・作者のとらえている四季それぞれの趣を読み取り、味わう

・古文の調子や表現のしかたの特徴に注意して読み味わう

「おくのほそ道」の学習として、

・作品を貫く芭蕉の「旅」の思いを読み取り、味わう

・俳句と地の文とのかかわりを読み味わう

・表現のしかたや文体の特徴に注意して読み味わう

などが、それぞれ挙げてある。さらに、「言葉の学習」として、助

詞の省略、助詞「の」の用法（主格を示すかどうかの判別）、係り結

びなどがみられる。

しかし、実際に、入学してきた生徒の調査によれば、中学校での

古典学習は、学校によってかなりの差異がみられ、また、個人差も

かなり開きがあることがわかった。

生徒の実態

本校は、倉敷市南部に位置し、全日制普通科高校で、第一学年八
学級（定員三六〇名）である。倉敷市内には、普通科高校が四校あ
り、総合選抜を行っている、ほとんどの生徒が大学に進学する。

入学した生徒の国語への興味、関心の程度は、四月に実施したア
ンケート調査結果によれば、次のとおりである。

1 読書は、概して好きである。（男子は、文学、自然科学、歴史
が好きで、女子は、圧倒的に文学を好む。男女とも、雑誌、マン

ガ類を多読する。図書館の利用者は少ない。

2 授業中などでの発言は苦手で、指名されて発言する者が多い。

3 文章は、原稿用紙二枚程度が最も書きやすい長さで、読書感想文などは、苦痛に感じる者が多い。

これらの生徒が、高校で一学期、古文を学習して、それをどのよう
うに受けとめているか、七月初めに実施した調査によれば、次のと
おりである。(数字は、百分率を示す)

○古文の授業について、

好き

二一・一

嫌い

二五・七

どちらともいえない

五三・二

好きな理由として、話の内容が現在の生活の中でも十分期待され、
自分のためになるから(三三・五)、昔の人々の考え方や気持ち、
生活状況を知ることができるから(二七・〇)、授業が楽しいから
(一三・五)
嫌いな理由として、文法が理解できないから(五七・七)、聞き
慣れないことが多く、単語が覚えられないから(三三・四)など
があげられている。

○これまでに読んだことのある古典で印象に残っている作品は、

徒然草 五二・〇

竹取物語 三六・〇

枕草子 三三・六

奥の細道 一九・四

百人一首 一八・九

今昔物語 一六・六

万葉集 一三・七

源氏物語 一〇・九

平家物語 八・六

が、上位を占め、ほとんど中学校で学習した教材である。奥の細道、
平家物語は、男子に人気があり、百人一首、源氏物語は、女子の支
持が圧倒的である。

○一日平均、古文学習にあてる時間は、

〇 〇 三〇分 一八・九

三〇 〇 六〇分 五六・六

六一 〇 九〇分 二一・一

九〇分以上 一・七

で、いずれも、授業のある前日、日曜日を中心に古文の学習にあて
ている。

○学習の方法について、

・原文をノートに写し、参考書などを利用して

口語訳や文法を調べる

・原文をノートに写し、朗読する

・原文をノートに写し、辞書を引きながら訳してみる

と、ほとんど予習で、十分復習するには至っていない。復習に重点
を置いて学習している者五%、ほとんど勉強していない者も二%弱
いる。

○古文でどんなことを学習してみたいか。

・民俗学的な面を理解したい

二七・四

・受験体制に即応した内容を中心に、単語・文法等の理解を
したい

二五・一

・作者の思想について理解したい

二四・〇

・当時の人々の感性にふれ、自分の感性をみがきたい 一八・九
生徒も、一年の時から大学受験を意識している者が多い。また、民
俗学的な側面や作者の思想などの学習については、「現代社会」の
授業とも関連があるようだ。

本校での実践

本校の教育課程は、次表のとおりである。「国語Ⅰ」（六単位）
の授業は、三人の教師が担当し、現代文と古典を分担している。

3年	現	古	1	2	3	4	5	6
	代	典						
2年	国	語	1	2	3	4	5	6
1年	国	語						

一 学期の古文の実授業時数は、各クラス
二〜二三時間であり、使用した教材、指
導内容等は、別表(1)のとおりである。

古文入門ということをあまり配慮しすぎ
るのはよくない。生徒の実態をよく把握し、
指導事項をできるだけ精選し、いかにわか
りやすく、かつ興味・関心をもたせるよう
に指導するかが大切である。したがって、

指導に当たっては、次の事項に重点を置いた。

1 朗読で読みを深め、古文に慣れる。

歴史的かなづかいの読みに注意させながら、息つきなどに注
意して範読の後、数回斉読、指名読みで正しく読めるかどうか
確認する。帰宅後も音読させ、次時で確認する。努力すれば、
誰でも上手に読めるという自信をもたせ、十分読めない者には、

十回以上の視写をさせ、古文に慣れさせる。

2 ノートの取り方を工夫する。

まず、原文を視写させることにより、仮名づかいの違いに気づ
かせるとともに、口語訳をしたうえで、授業を受けさせる。ノ
ートの記入のしかたについては、一つの形式を示し、あとは、
各自で工夫させる。特に、「表現」の領域でも活用できるよう
にするため、余白を十分にとらせる。

3 言語事項は、特に精選して指導する。

入門期においては、古文の特徴として主語、助詞などの省略、
係り結び、敬語の種類程度にとどめ、一学期の比較的早い時期
に動詞についてのみ、特別の時間を設けて体系的に指導した。
これは、用言、助動詞の語尾変化の理解の手助けにもなるし、
「古語辞典」を利用させるためにも必要だと考えたからである。
また、主な助動詞(別表(2)参照)については、意味を中心に
指導した。

4 辞典、参考書などを利用させる。

古文の副教材として、古語辞典、文語文法、国語便覧等をもた
せており、その活用をはかるよう指導する。

5 文章の大体の意味をつかませる。

字数制限をして要約させたり、感想を書かせたりする。また、
参考書などで調べさせたりしながら、「理解」から「表現」へ
の関連指導も考慮して行う。

このようにして、一学期の指導を行ったのであるが、最初の四時
間の授業の展開をくわしく示すと別表(3)のようになる。

(※68ページに続く)

表 現	言 語 事 項	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> • いろは歌と五十音図 	<ul style="list-style-type: none"> • 漢文で，故事成語格言について学習する。
<ul style="list-style-type: none"> ○朗読の指導 (範読，斉読，指名読み) • 古文に慣れさせる。 • 古文と現代文との違いに気づかせる。 • 朗読の方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> • 歴史的仮名づかい • 文語と口語（語い）との違い 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ノートを取り方を指導 • 継続的に予習しているか。 • 項目をたて，整理しているか。 • 教室で記入する余白があるか。 • 辞書等効果的に活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 係り結びのきまり • 文，文節，語 	<ul style="list-style-type: none"> ○補充プリント
<ul style="list-style-type: none"> ○短作文の指導 • 大意をまとめる。 • 感想文を書く。 • 月の世界でのかぐや姫の生活を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 動詞の活用と活用形 • 古文の慣用的ないい方 • 古語辞典の使い方 • 副詞の呼応 	<ul style="list-style-type: none"> ○補充プリント • 現代文で，小説「羅生門」を学習する。
	<ul style="list-style-type: none"> • 主な助動詞の理解 別紙(3)B • 敬語表現の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○補充プリント

別表(1) 一学期における古文指導の実際 (昭和57年4月～7月)

単元	教 材 名	表指導 時間	理 解
古 文 入 門	○古文入門 ・古典の学習 ・古文を読むにあたって	2	○古典が生徒の生活周辺にかかわっていることを考えさせる。 ○古文の学習のしかたを理解する。
	○仁和寺にある法師 (徒然草) 付口語訳	2	○原文と口語訳とを対照して、古文の特徴をおおまかにとらえる。
	○見のそら寝 (宇治拾遺物語)	2	○基本的な古語、簡単な慣用語について理解する。
	文法 (動詞)	2	○動詞の活用と活用形について理解する。
	羅城門登上層死人盗人語 付口語訳 (今昔物語)	3	○説話について簡単に説明する。 ○小説「羅生門」との比較表を作成する。
	大刀帯陣売魚鱈語 付口語訳 (今昔物語)	3	○中古の物語の冒頭文を調べる。
愛 の か た ち	○かぐや姫のおひたち (竹取物語)	3	○伝記的な物語という王朝物語のおもしろさを理解する。
	翁の説得 (竹取物語)	3	○適切な口語訳ができるようにさせる。
	かぐや姫の昇天 (1) (竹取物語)	3	○人物の心理、行動の描写に注目させる。

(注) 教科書は「国語①」第一学習社である。

教材名の○印は教科書に採録されているもので、他は補充教材である。

別表(2) 一学期使用教材にみられる助動詞の頻度

なり	まめ	べら	けむ	むじ	むず	たり	たぬ	けき	ず	らる	しさ	す	助動詞 教材						
2	1		1			1	2	1	5	3	2		仁和寺						
			1		1	7	6	2	9	1	1	1	児のそら寝						
3			1		4	3	11	1	1	17	2		羅城門						
5		1			5	1	9	1	12	3		2	太刀帯						
3	1	1				3	8	1	7	2		2	かぐや姫 おひたち						
8	2	1	3	2	1	15	1	2	5	2	7	15	1	翁の説得					
4		1	3	1		1	3	1	1		3	1		姫の昇天(1)					
5		2				1	2	6	2	5	3	7	1	〃 (2)					
30	2	3	10	4	2	1	2	42	9	35	25	8	62	3	35	4	2	4	合計

(※65ページより)
今後の課題

新教育課程による教科書は、一三社一七点であり、古文入門期における教材は、別表(4)のとおりである。竹取物語、説話物語、平家物語が多いのが特徴であり、徒然草、伊勢物語などは、別の単元で扱われている関係もあり、入門期の教材としては少ない。

古文入門として、導入のための解説も取りあげられているが、いまひとつ工夫がほしい。例えば、古文と漢文とをあわせた、古典としての入門解説は考えられないものか。

また、ほとんどの教科書が、ジャンル別単元で構成されているので、現代文と古典との総合をどのように図るか教師の工夫が要求されている。

さて、最後に、わずか一学期間ではあるが、「国語I」の実践をとおして感じたこと、問題点などをいくつか指摘して筆を擱く。

。配慮過剰による生徒の自主的な学習態度の喪失を防止する工夫。

。中学校の古典指導との発展的関連のあり方。

。他教科(特に「現代社会」と)の有機的な関連のあり方。

。言語事項として理解のための文論、文章論的な取り扱い方。

。課題学習をどう取り入れたらよいか。ノート指導との関連もふまえて。

。補助教材をいつ、どこで、どのように取り入れるか。

小論は、昭和五十七年七月、神戸市で開催された「高等学校教育課程運営改善講座」において、「生徒の能力・適性等の実践に即した「国語I」の指導計画の作成と学習指導の在り方」(月刊「高校

(※70ページに続く)

別表(3) 学習指導の展開

時間	指導内容及び学習活動	教材及びすすめ方
古文 第一校時	0	<ul style="list-style-type: none"> ・(生徒に30秒以内で簡単な自己紹介をさせる。) ・「古典の学習」を指名し、音読させる。 ・要旨を教師がまとめる。 ・生徒の知っている古典の作品名・作者について発表させる。 ・生徒の生活や環境のなかに用いられている、古典にかかわりのあることばについて考えさせる。
	5	
	25	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生活や環境のなかに用いられている、古典にかかわりのあることばについて考えさせる。
	50	
入門 第二校時	0	<ul style="list-style-type: none"> ・作品をジャンル別、時代順にして簡単な文学史的位置づけをして、古典の範囲を示す。 ・学習内容を「個人の生活」という観点からとらえ、有職故実等への知的な興味を深める。 ・音読(暗誦)により、古文に親しむ機会を与える。 ・原文を視写することにより古文に慣れさせる。
	5	
	35	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">高校での学習方法</div>
	50	プリント② 古典の世界(中3の教科書) プリント③ ノートの取り方
仁和寺 にある	0	<ul style="list-style-type: none"> ・「古文を読むにあたって」を指名し、音読させる。 ・原文を範読し、斉音読させたのち、指名読みさせる。 ・現代かなづかいと相違する部分をチェックする。
	10	
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・口語訳を読みながら、原文に省略されている語に気づかせる。 ・基本古語を指示して、口語訳からその意味を正確に指摘させる。
	25	
	45	<ul style="list-style-type: none"> ・文語文法への導入
	50	
	50	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">音読</div>
	50	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">古文の調子に慣れる(2)</div>
法師 第四校時	0	<ul style="list-style-type: none"> ・原文を指名して音読させる。 ・大意をつかむ。(説話の構成) ・会話文から法師の心理を理解する。 ・この話の「をかしみ」はどこにあるか。 ・作者はどんな眼で法師の言動を観察しているか。 ・法師の話聞いた「かたへの人」はどうしたか。この話の簡単な続きを書いてみよう。 ・法師と同じような経験があれば話し合ってみよう。 ・「徒然草」52段前後の章段を読んでみよう。
	40	
	50	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">語い</div>
	50	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">内容理解</div>
	50	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">通釈</div>
	50	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">文法</div>
	50	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">説話のおもしろさ</div>

別表(4)

教科書 作品名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	計
	古文入門	○	○					○		○	○	○	○		○	○	○	○
竹取物語	○	◎	■			○			○			○	○	○	○	○		10
宇治拾遺物語	○		○	○			○						○	◎	◎	○	○	9
平家物語								◎		○	◎			○	◎			5
徒然草	○				○	○											○	4
今昔物語						○				○								2
枕草子					○		○											2
十訓抄													○			○		2
百人一首	○												○					2
伊勢物語			○															1
古今著聞集													○					1
玉勝間					○													1
北越雪譜			○															1
備考	古典のみちしるべ①②③ ことばの研究① 日本語の特色② 古典の仮名づかい 古典を読むために①② 言葉の研究A テーマ単元 古文と現代文 古文にみる書き出し 文法のまとめ																	

「国語I」教科書にみる「古文入門」単元の教材名

(※68ページより)
「教育」57年10月号所収)で発表したものにに基づき、

同年十月七日、岡山市で開催された「高等学校教育課程岡山県研究会」で、報告したものに一部加筆したものである。

(昭和五十七年十一月一日脱稿)

(岡山県立倉敷南高等学校教諭)

(参考)「国語I学習課題集」

仁和寺にある法師

1 基礎知識

一 次のことばの読みを、現代仮名遣いで記せ。

↓学習一・二

- 1 徒歩たふより詣まうでけり () () ()
 - 2 かたへの人にあひて () () ()
 - 3 たふとくこそおはしけれ () () ()
 - 4 まるりたる 本意 () () ()
- 二 次のことばの意味を、辞書で確かめよ。活用語は、終止形を()内に示している。活用語については、それぞれの品詞名もあわせて答えよ。↓学習三
- 1 心うく覚えて(心うし) () () ()
 - 2 年ごろ () () ()

3 おはしけれ(おはす) ()

4 ゆかしかりしかど(ゆかし) ()

5 本意 ()

6 先達 ()

三 次の1・2の傍線部の助詞の意味として適当なものを、ア～オの中から選び、記号で答えよ。

1 徒歩より詣でけり。

2 何事かありけむ。

ア 動作の起点(…カラ) イ 比較(…ヨリモ)

ウ 動作の手段(…デ) エ 疑問(…カ)

オ 詠嘆(…タナア)

1
2

2 内容理解

一 古文では、主語を示す助詞、目的語を示す助詞は、よく省略される。次のような言い方は、現代語では普通、内にとどのような助詞を補って言うか。

1 仁和寺にある法師、……詣でけり。

2 年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。

1
2

二 日本語は、主語を明示しない文が多い。読解にあたっては、述語に対応する主語を確かめながら読むことが大切である。次

の一節の主語を、文中の語句で答えよ。

1 たふとくこそおはしけれ。 2 山までは見す。

1
2

三 本文は、二段落で構成されている。その構成と内容について、次の問いに答えよ。

1 第一段落を二節に分けるとすれば、どこで分かれるか。第二節の最初の五文字を抜き出せ。

2 「かばかりと心得て」とあるが、「仁和寺にある法師」は、具体的にはどのように誤解したのかを説明し、御本社の位置を答えよ。解答には、次の三つの社寺名を用いること。
〈石清水八幡宮の御本社 極楽寺 高良社〉

--

3 法師の失敗の原因を一語で言い表すとすれば、次の中どれが最も適当であると判断されるか。記号で答えよ。

ア 信仰 イ 自信 ウ 独断 エ 軽率 オ 短気

--

右の判断のよりどころとなるのは、法師の失敗の直接的な原因として挙げられる二つの事実である。具体的に指摘せよ。

4 本文の主題を表す一文を抜き出せ。

--	--

四 主人公「仁和寺にある法師」のことは「年ごろ……は見ず。」について、次の問いに答えよ。

1 この会話は三文で構成されている。それぞれの文にうかがわれる法師の心理の説明として最も適当なものを次のア～オから選び、順に記号で答えよ。

ア 石清水の立派なたたずまいとその尊さに感動している。
イ 年をとるまで石清水を拝まなかった無念さを遂に果たした喜びにあふれている。

ウ 石清水を拜んだことに感動し、山上の社に参拝しなかったことを残念に思っている。

エ 己れの信心の深さへの確信に満ち、人々は別のことに心を奪われているのではないかと疑問に思っている。

オ 物見遊山の気分で参拝する人々を批判している。

①			
---	--	--	--

2 この話を法師の自慢話という観点からみると、法師は、

「石清水に参拝し感動した。」ということに加えて、どんなことを自慢したくて「かたへの人」に話しかけていることになるか。

--

3 まとめと発展

一 法師の言動を観察する兼好の眼はどのようなものであろうか。次の中から適切と考えられるものを選び、記号で答えよ。

1 なんとも間の抜けた法師の失敗をあわれむとともに、冷やかな眼を向けている。

2 失敗もまた人生の一部であると考え、自由に振るまい、語る法師の無邪気さをうらやんでいる。

3 目的を果たせなかった法師を気の毒に思うとともに、教訓を導き出すべく同情を内省に転化している。

--

二 この話の「をかしみ」はどこにあるか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

1 おしゃべりな法師が、うれしさのあまり他人のことまでとやかく言っているところ。

2 法師が、自分の失敗に気づかず、念願を果たしたといつて得意気に振るまわっているところ。

3 法師の言動を皮肉って風刺をこめていっているところ。

三 法師の話聞いた「かたへの人」はどうしたであろうか。
この話の簡単な統編を述べてみよ。

